

Benesse 教育研究開発センター

## 第1回小学校英語に関する基本調査(保護者調査)

## 調査企画・分析メンバー

金子 真理子 東京学芸大学助教授	木村 治生 Benesse 教育研究開発センター教育調査室長
直山 木綿子 京都市総合教育センター指導主事	沓澤 糸 Benesse 教育研究開発センター主任研究員
矢野 智子 京都市立西陣中央小学校教諭	朝永 昌孝 Benesse 教育研究開発センター研究員
吉田 研作 上智大学教授	福本 優美子 Benesse 教育研究開発センター研究員

## 【第1回小学校英語に関する基本調査(保護者調査)報告書】2007年5月刊行予定

本調査の詳細な分析をまとめた【第1回小学校英語に関する基本調査(保護者調査)報告書】(150頁程度、頒価1000円)を、2007年5月に刊行する予定です。この報告書をご希望の方は、直接、Benesse 教育研究開発センターにお申し込みください。(なお、この報告書は、書店ではお求めになれません。)

## 【第1回小学校英語に関する基本調査(教員調査)速報版】既刊

## 【第1回小学校英語に関する基本調査(教員調査)報告書】2007年3月刊行予定

教員調査の結果については、2006年11月に速報版を刊行しています。また、報告書(150頁程度、頒価1000円)を、2007年3月に刊行する予定です。これらの冊子をご希望の方も、直接、Benesse 教育研究開発センターにお申し込みください。(なお、これらの冊子は、書店ではお求めになれません。)

## WEBサイトのご案内

Benesse 教育研究開発センターで実施している各種調査は、以下のWEBサイトでご覧いただけます。

Benesse 教育研究開発センター  <http://benesse.jp/berd/>

英語教材に関する情報は、以下のWEBサイトでご覧いただけます。

ベネッセコーポレーションHP / 語学  <http://www.benesse.co.jp/gogaku/>

速報版

# 第1回 小学校英語に関する 基本調査

## 保護者調査

保護者の小学校英語への思いは？  
小学生の英語学習の現状は？

小学生の英語学習を考える

## 調査概要

### 調査テーマ

- 小学生の英語学習の実態把握
- 小学校英語についての保護者の意識把握

### 調査方法

学校通しによる家庭での自記式質問紙調査

### 調査時期

2006年9月～10月

### 調査対象

小学1年生から小学6年生の子どもをもつ保護者 4,718名  
(配布数 5,847通、回収率 80.7%)

※抽出方法…市区町村の人口規模および人口密度を考慮した有意抽出法。大都市(東京23区)、中都市(地方中規模都市)、郡部(町村部)の3地域区分を設定してサンプルを抽出した。

### 調査項目

- 小学生の英語学習の実態  
学校での英語教育(活動)\*の認知、家庭での様子、英語教育への満足度、学校外での英語学習の有無、教室や教材の種類、英語学習の開始年齢、英語学習の理由、教育費、子どもの英語力
- 保護者の意識  
小学校英語への関心、必修化に対する賛否、小学校英語に期待できる効果、小学校英語への不安、小学校英語に望むこと、望ましい開始学年、英語学習の望ましい場、英語教育に関する意識、学校に重視してほしい指導や教育、増やしてほしい授業時間、子どもに期待する英語力、教育観

\*現在、小学校では一般に「英語活動」といわれているが、本調査では「英語教育」と表記している。

### 基本属性

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	無答不明	合計
大都市	277	297	289	285	268	256	41	1,713
中都市	199	186	222	212	231	267	43	1,360
郡部	256	228	247	269	291	307	47	1,645
合計	732	711	758	766	790	830	131	4,718

- 子どもの性別  
男子 …… 49.6%  
女子 …… 48.7%  
無答不明 …… 1.7%
- 子どもの人数  
1人 …… 13.5%  
2人 …… 51.1%  
3人 …… 27.4%  
4人以上 …… 6.2%  
無答不明 …… 1.8%
- 子どもの出生順位  
第1子 …… 50.1%  
第2子 …… 33.3%  
第3子 …… 12.0%  
第4子以降 …… 2.0%  
無答不明 …… 2.6%
- 子どもとの続柄  
母親 …… 89.3%  
父親 …… 8.4%  
祖母 …… 0.6%  
祖父 …… 0.1%  
その他 …… 0.2%  
無答不明 …… 1.5%
- 母親の平均年齢  
…… 38.5歳
- 父親の平均年齢  
…… 41.1歳

## 本調査の枠組み

### 第1回 小学校英語に関する基本調査

#### 教員調査

2006年7月～8月実施

全国の公立小学校の教員(教務主任)対象  
・現在の英語教育(活動)の実態把握  
・小学校英語についての教員の意識把握

#### 保護者調査

2006年9月～10月実施

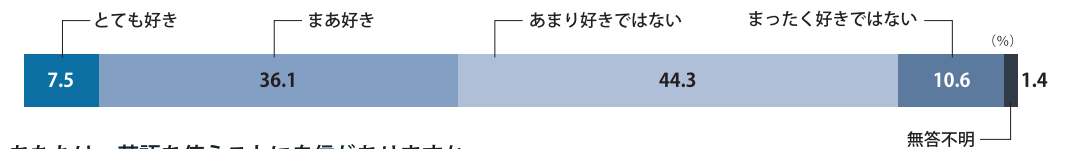
小学生の保護者対象  
・小学生の英語学習の実態把握  
・小学校英語についての保護者の意識把握

※速報は「第1回小学校英語に関する基本調査(教員調査)速報版」(2006年11月刊行)、詳細は「第1回小学校英語に関する基本調査(教員調査)報告書」(2007年3月刊行予定)にて報告。

※詳細は「第1回小学校英語に関する基本調査(保護者調査)報告書」(2007年5月刊行予定)にて報告。

## 保護者自身の様子

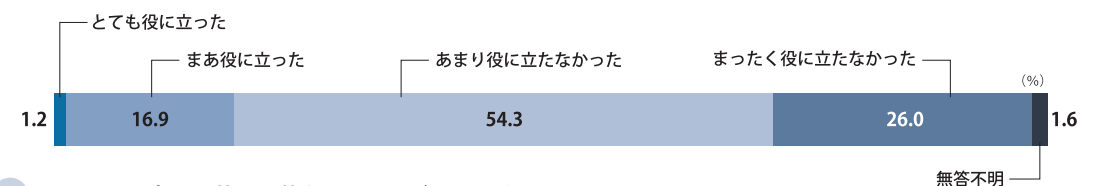
Q あなたは、英語が好きですか。



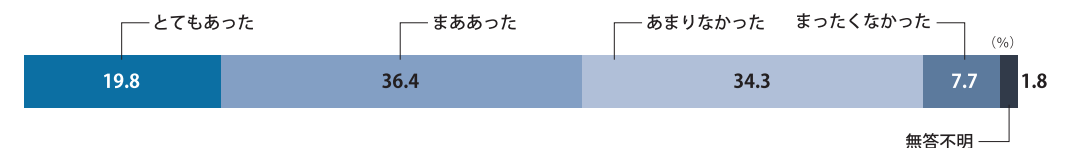
Q あなたは、英語を使うことに自信がありますか。



Q あなたが受けてきた学校の英語教育は役に立ったと思いますか。



Q あなたは、今まで英語で苦労したことがありますか。



## 本調査の対象校の特性

本調査では、保護者調査と並行して、調査対象校(31校)の教務主任に対し、各校の英語教育(活動)の実施状況に関する調査(学校調査)も実施した。ただし、これは本調査の対象校のみの結果であるため、全国的な傾向については、先に実施した「教員調査」の結果を参照されたい。

調査対象校(31校)の特性 | 今回の調査対象校(31校)は、すべて何らかの形で英語教育を行っている学校。

- 地域  
大都市 …… 11校  
中都市 …… 9校  
郡部 …… 11校
- 英語教育の開始時期  
今年度(平成18年度) …… 1校  
平成14年度～17年度 …… 14校  
～平成13年度 …… 11校  
わからない …… 5校
- 学校の種類  
英語教育に関する研究開発学校(研究開発指定校を含む) …… 0校  
英語教育に関する特区にある学校 …… 2校  
それ以外 …… 28校  
無答不明 …… 1校
- 学年別の英語教育の実施状況  
1年生 …… 24校 4年生 …… 31校  
2年生 …… 24校 5年生 …… 30校  
3年生 …… 30校 6年生 …… 30校

「英語教育を行っているのは何年生ですか。また教育課程上の位置づけは何にあたりますか」という設問で、1つでも○がついていれば、その学年で英語教育を行っているものとみなした。

### 英語教育の年間時数

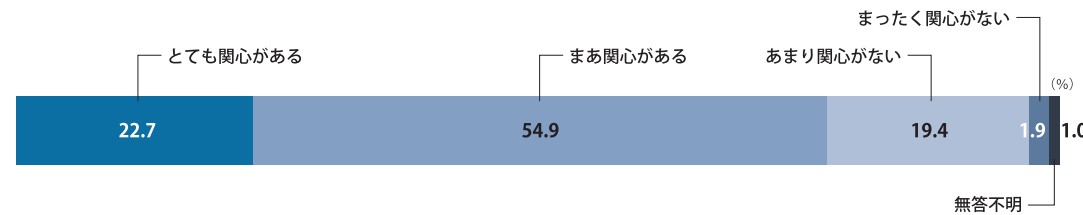
	低学年	中学年	高学年
0～5時間未満	13校	4校	5校
5～15時間未満	12校	14校	13校
15～25時間未満	5校	8校	7校
25～35時間未満	0校	2校	3校
35時間以上	0校	2校	2校
無答不明	1校	1校	1校

## 1 | 小学校英語への関心

8割近い保護者が、小学校の英語教育に関心をもっている。

Q 小学校の英語教育に、どれくらい関心がありますか。

図1-1 小学校英語への関心 (n=4,718人)



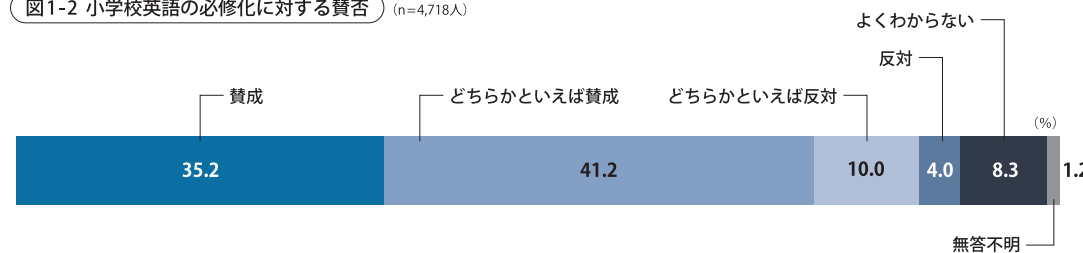
小学校の英語教育にどれくらい関心があるかをたずねたところ、77.6%の保護者が「関心がある(とても+まあ)」と回答している。およそ4人に3人の保護者は、小学校での英語教育に関心をもっている。

## 2 | 小学校英語の必修化に対する賛否

小学校で英語教育を必修にすることに「賛成」の保護者は76.4%、「反対」の保護者は14.0%。

Q 小学校で英語教育を必修にすること(どの学校でも必ず英語を学ぶようにすること)について、賛成ですか、反対ですか。

図1-2 小学校英語の必修化に対する賛否 (n=4,718人)



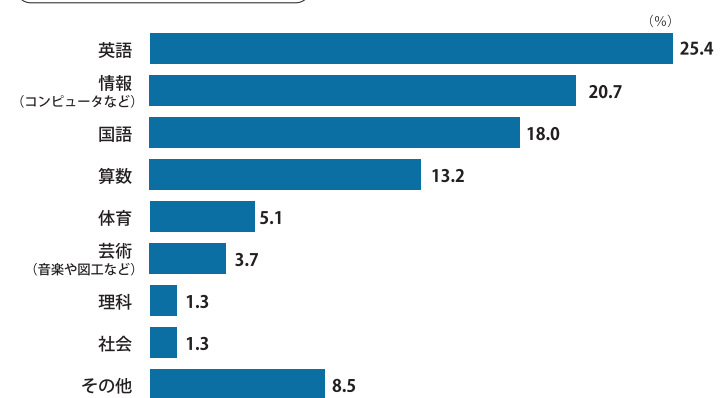
小学校で英語教育を必修にすることに対して賛成か反対かをたずねたところ、76.4%の保護者が「賛成(賛成+どちらかといえば賛成)」で、「反対(反対+どちらかといえば反対)」という回答は14.0%だった。「よくわからない」という回答も8.3%みられた。

## 3 | 増やしてほしい授業時間

もし週に1時間だけ増やせるなら、どの授業時間がよいかをたずねたところ、「英語」という回答が25.4%でトップ、次いで「情報」が20.7%だった。

Q もし週に1時間だけ、授業の時間が増やせるとしたら、どの時間を増やしてほしいと思いますか。

図1-3 増やしてほしい授業時間 (n=4,718人)



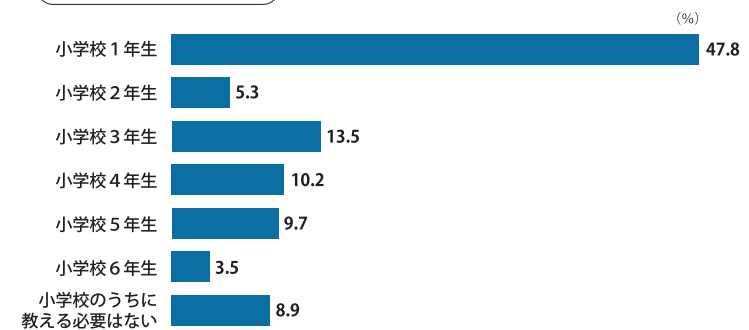
もし週に1時間だけ、授業の時間が増やせるとしたら、どの時間を増やしてほしいかをたずねたところ、もっとも多かったのは「英語」で、4人に1人(25.4%)の保護者が選択していた。続いて多かったのは「情報」で20.7%。以下、「国語」が18.0%、「算数」が13.2%と続く。なお、「その他」の自由記述では、「道徳」という回答が多かった。

## 4 | 望ましい開始学年

「小学校1年生」という回答がもっとも多く、47.8%であった。これに、「小学校3年生」13.5%が続く。「教える必要はない」は8.9%にとどまる。

Q 小学校で英語教育を行う場合、どの学年から開始するのがよいと思いますか。

図1-4 望ましい開始学年 (n=4,718人)

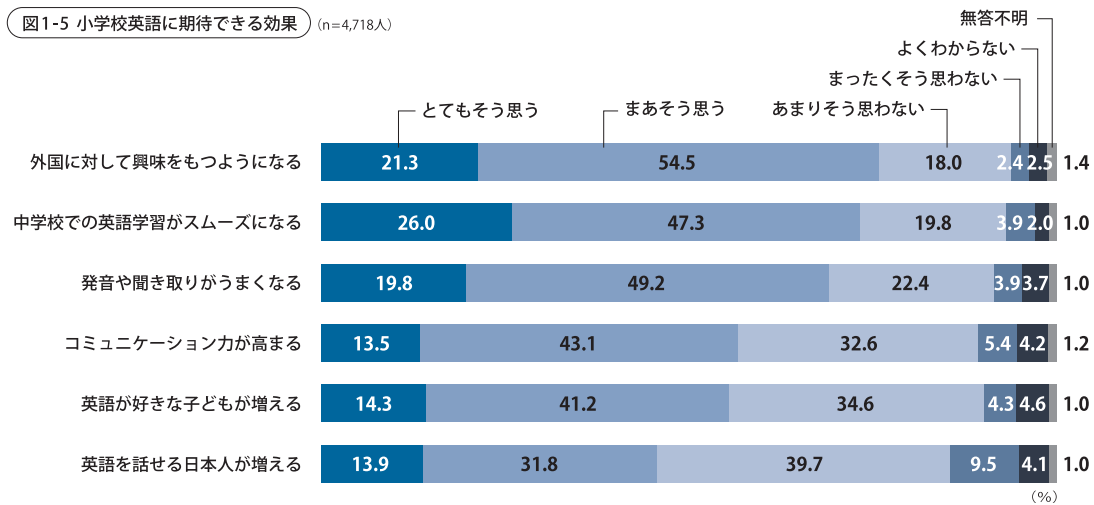


小学校で英語教育を行う場合にどの学年から始めるのがよいかをたずねたところ、「小学校1年生」がもっとも多く、47.8%であった。「小学校3年生」が13.5%で続く。一方、「教える必要はない」は8.9%にとどまった。半数近くの保護者が、小学校入学時からの英語教育を望んでいる。

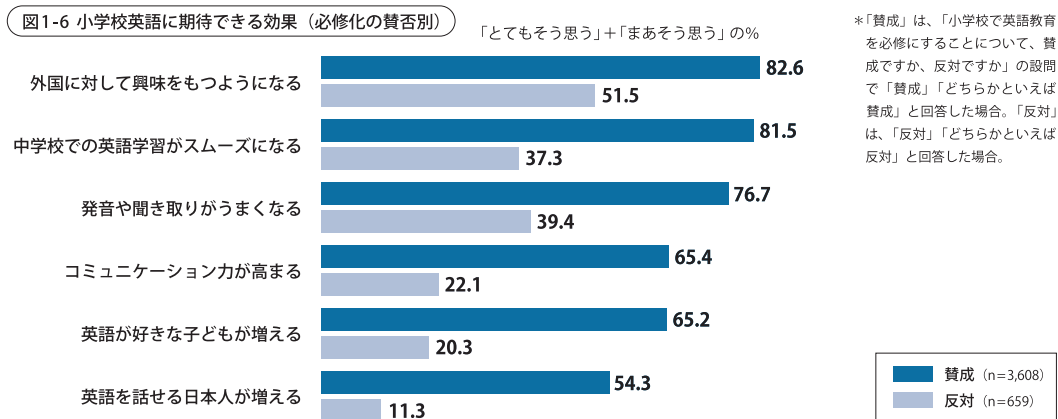
## 5 | 小学校英語に期待できる効果

7割前後の保護者が、「外国に対して興味をもつようになる」「中学校での英語学習がスムーズになる」「発音や聞き取りがうまくなる」という効果があるだろうと考えている。

Q 小学校に英語教育を導入することで、次のような効果が期待できると思いますか。



● 必修化に対する賛否別にみた、期待できると思う効果の違い



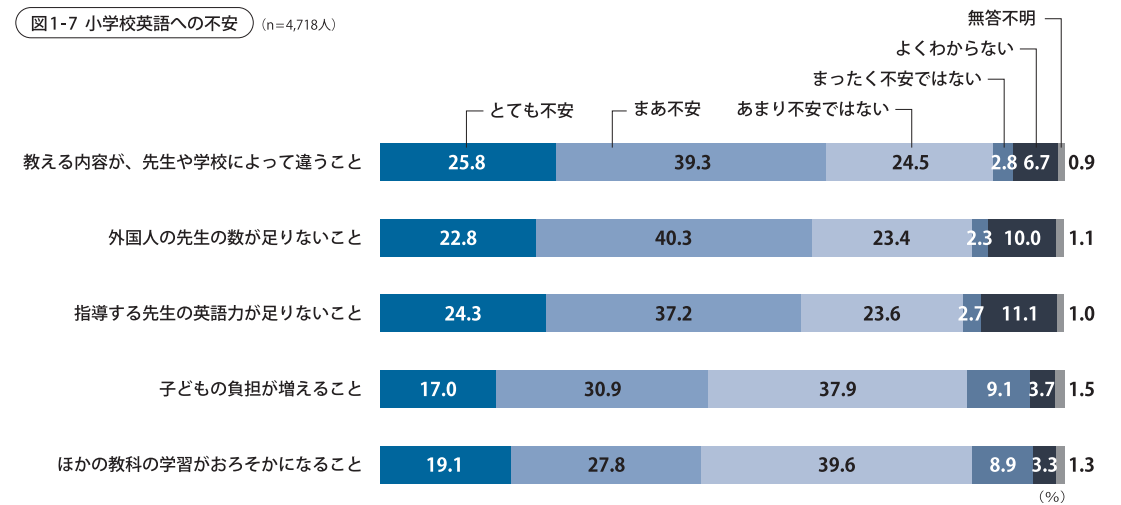
小学校の英語教育に期待できると思う効果をたずねたところ、「そう思う(とても+まあ)」という回答が多かったのは、「外国に対して興味をもつようになる」(75.8%)、「中学校での英語学習がスムーズになる」(73.3%)、「発音や聞き取りがうまくなる」(69.0%)だった(図1-5)。また、小学校

英語の必修化に対する賛否別に、期待できると思う効果の違いをみたところ、どの項目についても賛否で大きな差があり、賛成の保護者のほうが、さまざまな効果が期待できると考えている(図1-6)。

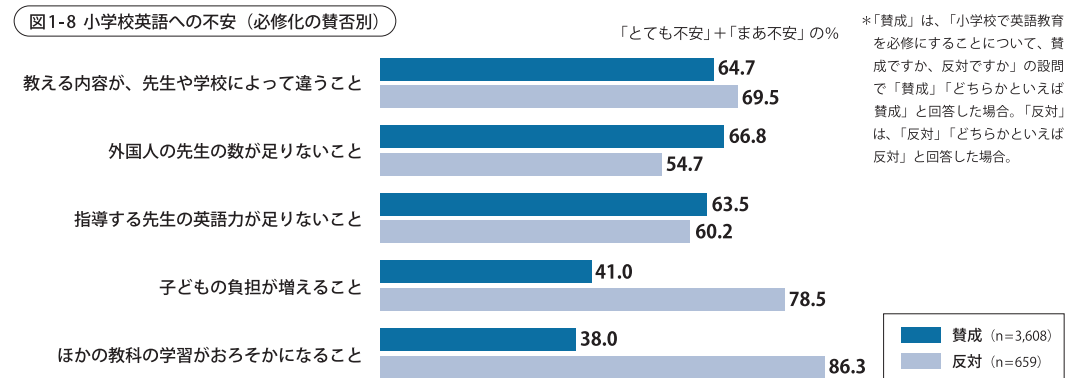
## 6 | 小学校英語への不安

6割の保護者が、「教える内容が、先生や学校によって違うこと」「外国人の先生の数が必要でないこと」「指導する先生の英語力が足りないこと」について不安を感じている。

Q 小学校の英語教育について、次のようなことに不安を感じますか。



● 必修化に対する賛否別にみた、不安の違い



小学校の英語教育に関して、「不安(とても+まあ)」との回答が多かったのは、「教える内容が、先生や学校によって違うこと」「外国人の先生の数が必要でないこと」「指導する先生の英語力が足りないこと」で、それぞれ6割程度だった。保護者は、教える内容や指導者に不安を感じていることがわかる(図1-7)。さらに、小学校英語の必修化に対する賛

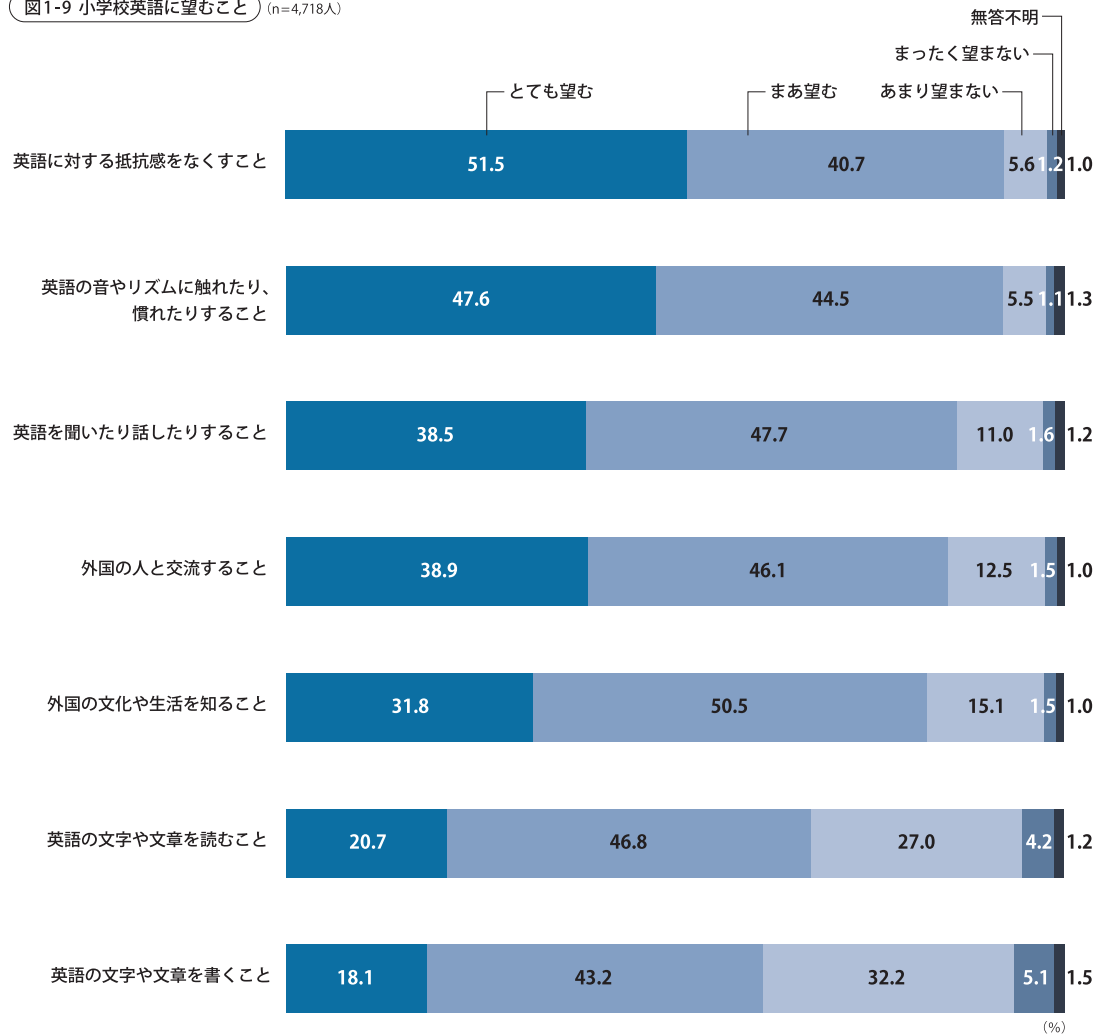
否別に、不安の違いをみたところ、とくに「子どもの負担が増えること」「ほかの教科の学習がおろそかになること」で必修化に反対の保護者の不安が高い。これに対し、「指導する先生の英語力が足りないこと」では、賛否による差がみられない(図1-8)。

## 7 | 小学校英語に望むこと

9割以上の保護者が「抵抗感をなくすこと」「音やリズムに触れたり、慣れたりすること」を望んでいる。文字や文章を読むことや書くことを望む保護者は6割台。

Q 小学校で英語教育を行うとしたら、次のようなことをどれくらい望みますか。

図1-9 小学校英語に望むこと (n=4,718人)



小学校の英語教育に対して望むことをたずねたところ、「英語に対する抵抗感をなくすこと」「英語の音やリズムに触れたり、慣れたりすること」を「望む(とても+まあ)」と回答した保護者は9割以上にものぼり、大半が望んでいる

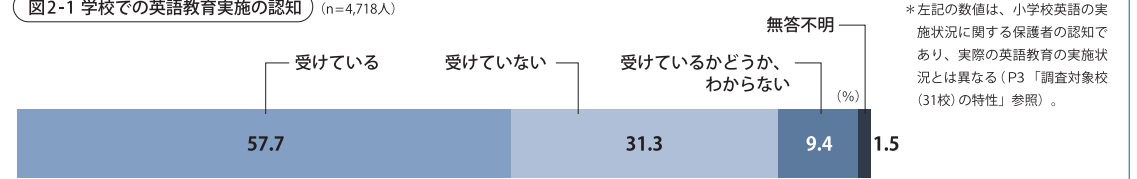
ことがわかる。「英語の文字や文章を読むこと」「英語の文字や文章を書くこと」といった文字指導を望んでいる保護者も6割以上いる。

## 1 | 英語教育の認知と満足度

子どもが学校で英語教育を「受けている」と回答した保護者は6割弱。また、「受けている」と回答した保護者のなかで、学校の教育内容を知っているのは4割程度。

Q お子様は、学校で英語教育を受けていますか。

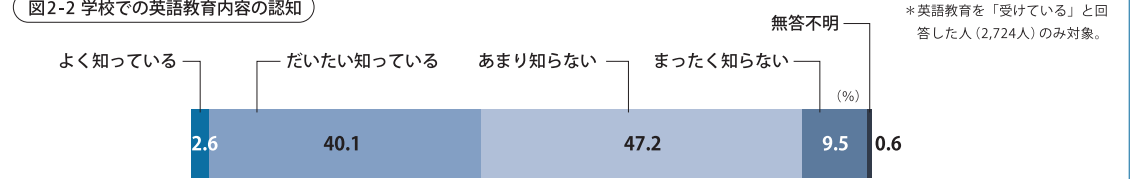
図2-1 学校での英語教育実施の認知 (n=4,718人)



\*左記の数値は、小学校英語の実施状況に関する保護者の認知であり、実際の英語教育の実施状況とは異なる(P3「調査対象校(31校)の特性」参照)。

SQ お子様在学校でどのような内容の英語教育を受けているかを知っていますか。(「受けている」と回答した人のみ)

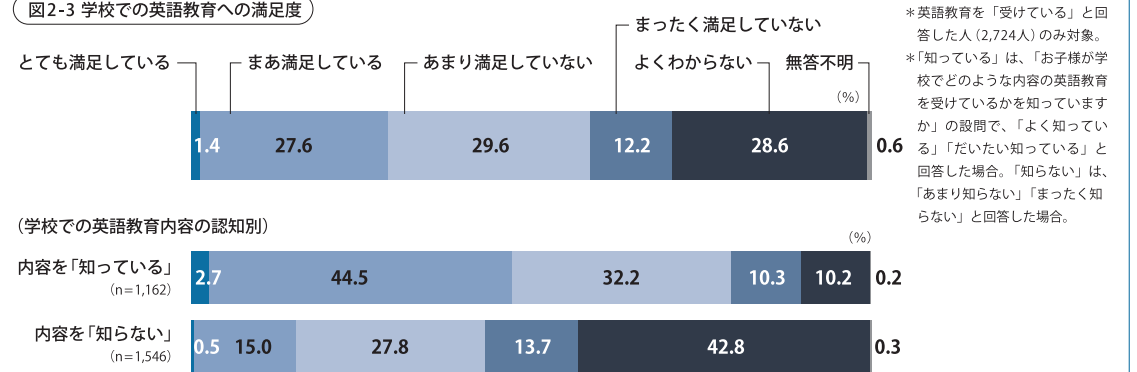
図2-2 学校での英語教育内容の認知



\*英語教育を「受けている」と回答した人(2,724人)のみ対象。

SQ お子様の学校で行われている英語教育について、満足していますか。(「受けている」と回答した人のみ)

図2-3 学校での英語教育への満足度



\*英語教育を「受けている」と回答した人(2,724人)のみ対象。  
\*「知っている」は、「お子様が学校でどのような内容の英語教育を受けているかを知っていますか」の設問で、「よく知っている」「だいたい知っている」と回答した場合。「知らない」は、「あまり知らない」「まったく知らない」と回答した場合。

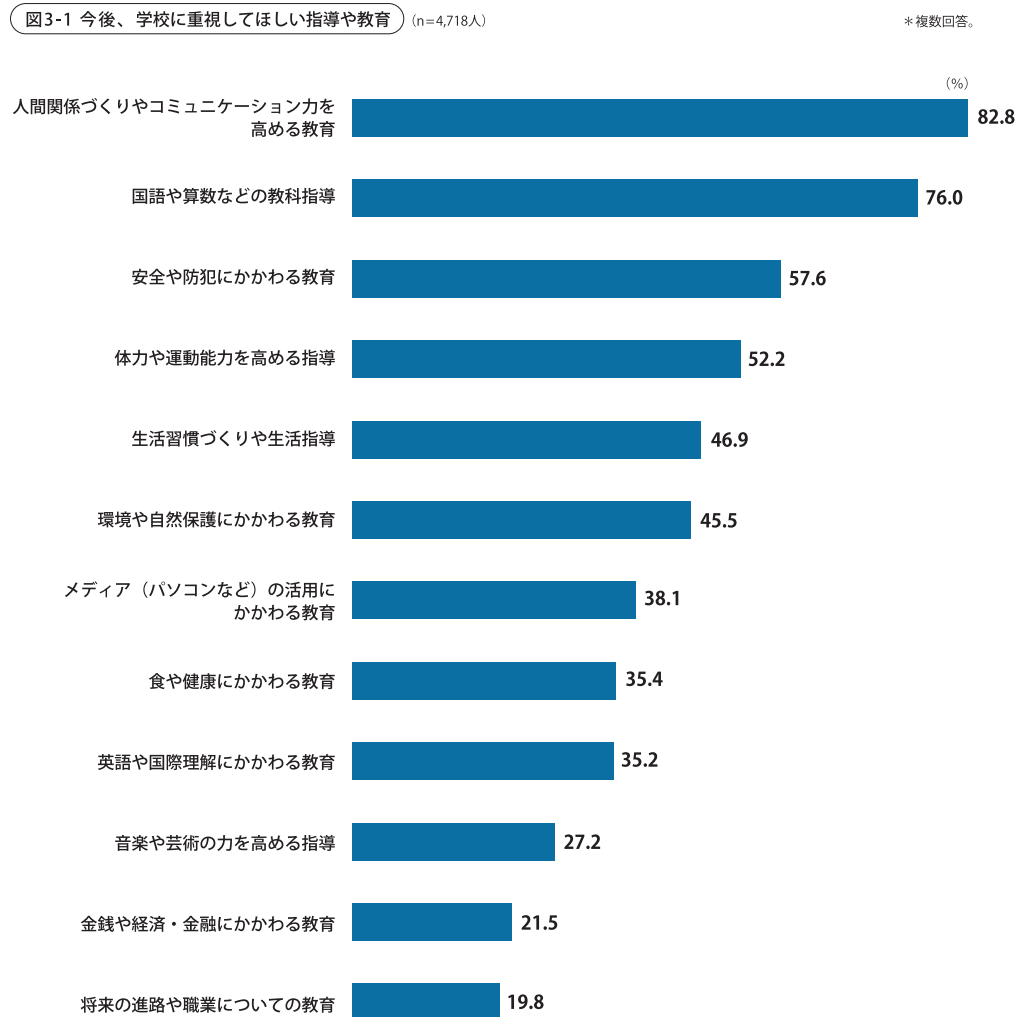
子どもが学校で英語教育を「受けている」と回答した保護者は6割弱(図2-1)。また、「受けている」と回答した保護者のうち、教育内容を「知っている(よく+だいたい)」のは4割程度だった(図2-2)。さらに、学校の英語教育に

「満足している(とても+まあ)」と回答したのは3割程度で、「よくわからない」も3割程度みられたが、英語教育の内容を「知っている」場合のほうが、「知らない」場合よりも「満足している」との回答は多い(図2-3)。

## 1 | 今後、学校に重視してほしい指導や教育

8割前後の保護者が、「人間関係づくりやコミュニケーション力を高める教育」「国語や算数などの教科指導」をあげている。

Q 学校に重視してほしいと思う指導や教育は何ですか。今後、重視してほしいと思うものを、すべて選んでください。



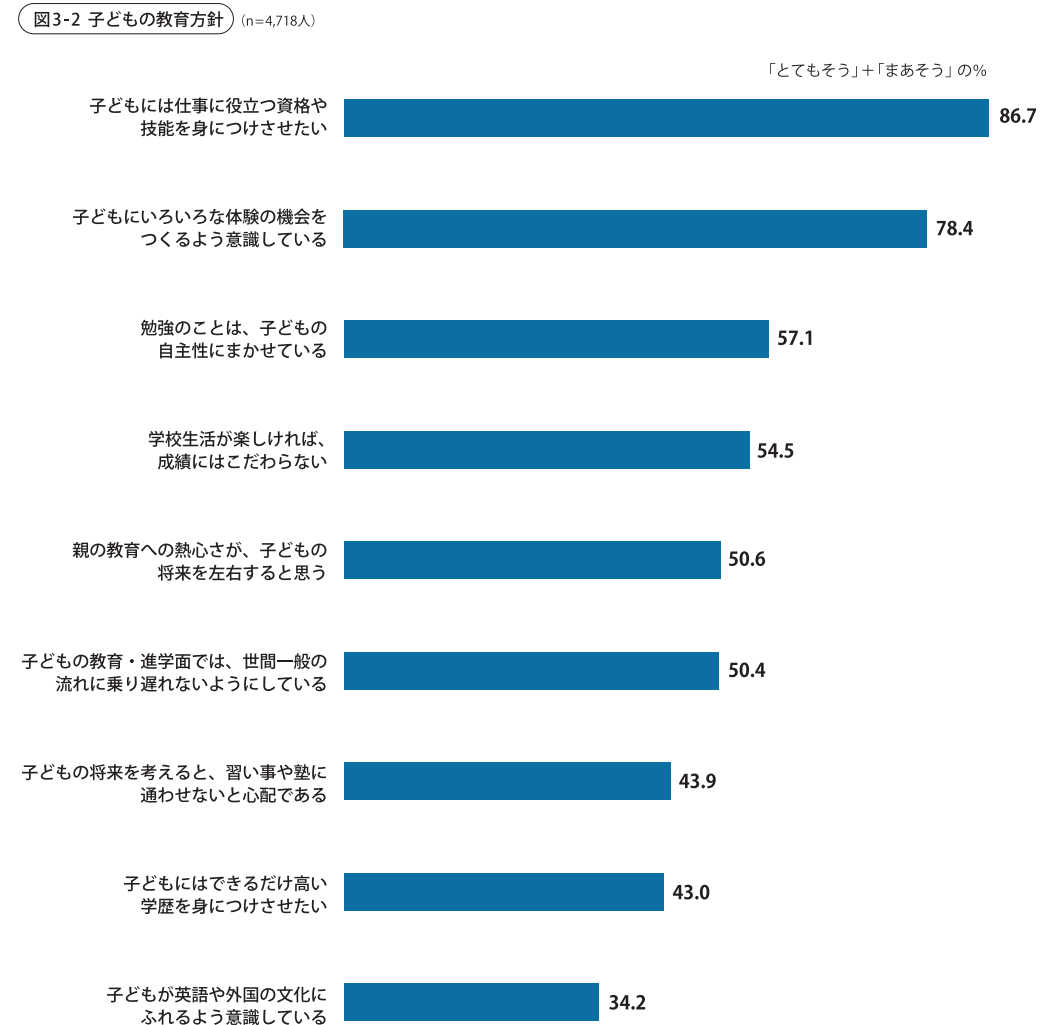
今後、学校に重視してほしいと思う指導や教育について、12項目の中から複数回答でたずねた。その結果、もっとも多かったのは「人間関係づくりやコミュニケーション力を高める教育」で82.8%、次いで「国語や算数などの教科指

導」となっていた。もっとも少ないのは「将来の進路や職業についての教育」で19.8%だった。「英語や国際理解にかかわる教育」は35.2%だった。

## 2 | 子どもの教育方針

子どもの教育に関して、86.7%の保護者は「仕事に役立つ資格や技能を身につけさせたい」と考えている。「英語や外国の文化にふれるよう意識している」のは3人に1人程度だった。

Q お子様の教育についてどのようにお考えですか。



子どもの教育に関する考えをたずねたところ、「子どもには仕事に役立つ資格や技能を身につけさせたい」に「そう(とても+まあ)」と回答した保護者が86.7%でもっとも多かった。「子どもにはいろいろな体験の機会をつくるよう

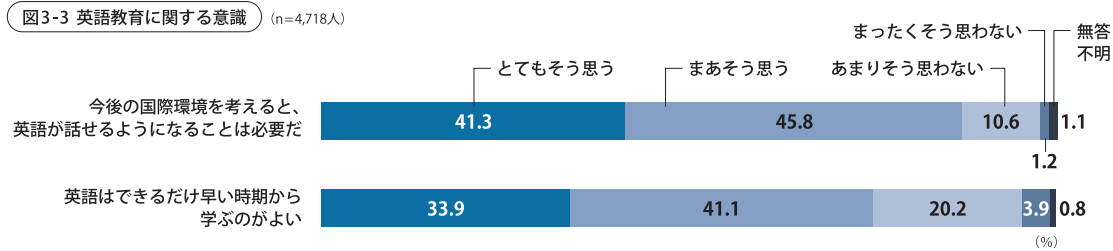
意識している」という回答も78.4%におよぶ。一方、「子どもが英語や外国の文化にふれるよう意識している」という回答は34.2%にとどまった。

# 4 学校外での英語学習

## 3 | 英語教育に関する意識

87.1%の保護者が「英語が話せるようになることは必要だ」と考え、75.0%の保護者が「英語はできるだけ早い時期から学ぶのがよい」と考えている。

Q 英語教育について、次のような意見がありますが、どのように考えますか。

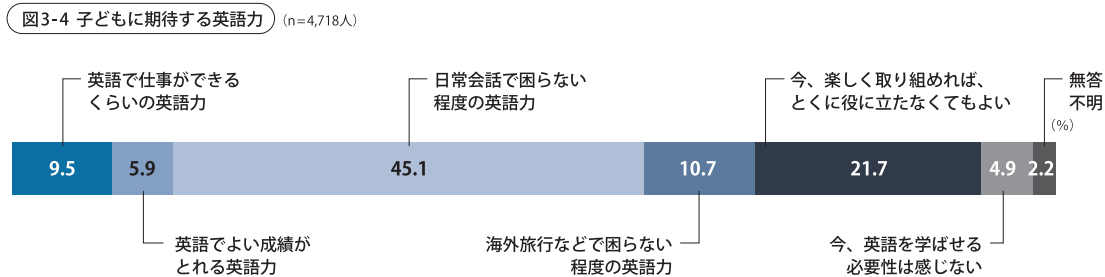


「今後の国際環境を考えると、英語が話せるようになることは必要だ」は「そう思う(とても+まあ)」という回答が87.1%。また、「英語はできるだけ早い時期から学ぶのがよい」も75.0%で、英語の必要性を感じている保護者が多いことがわかる。

## 4 | 子どもに期待する英語力

45.1%の保護者が、子どもには「日常会話で困らない程度の英語力」を望んでいる。一方、「今、楽しく取り組めれば、とくに役に立たなくてもよい」という保護者も21.7%いる。

Q お子様が英語を学ぶ際、どのレベルの英語力を身につけてほしいと思いますか。

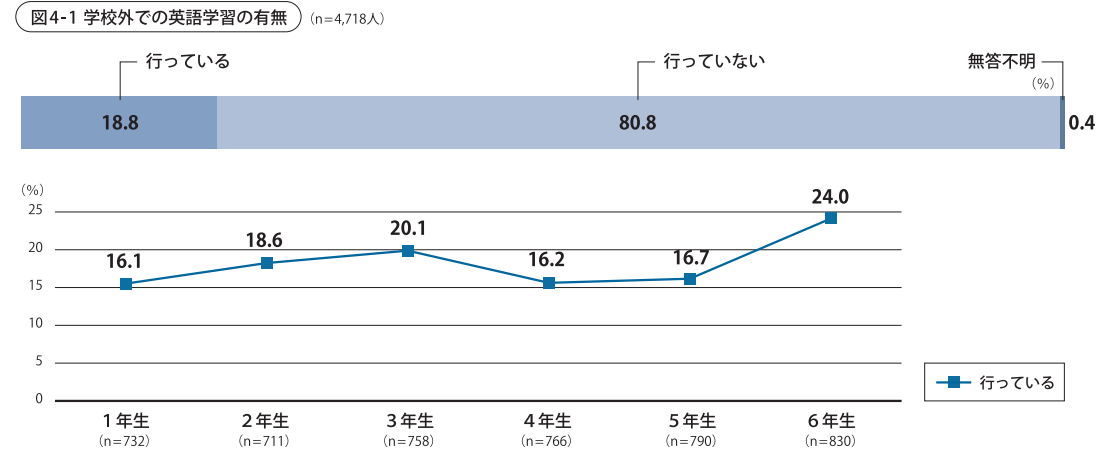


子どもが英語を学ぶ際に期待する英語力のレベルをたずねたところ、「日常会話で困らない程度の英語力」を望む保護者が45.1%でもっとも多い。その一方で、「今、楽しく取り組めれば、とくに役に立たなくてもよい」という保護者も21.7%で、2番目に多くなっている。

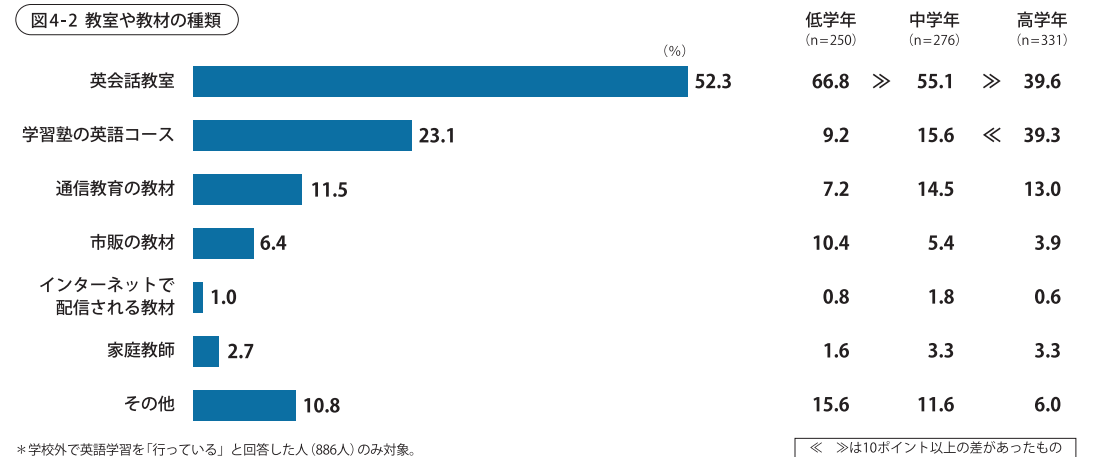
## 1 | 学校外での英語学習

学校外で英語学習を「行っている」小学生は2割弱。その半数が「英会話教室」に通っている。また、高学年になると、「学習塾の英語コース」に通う割合が高くなる。

Q 現在、お子様は、学校の授業以外で、英語や英会話の学習を行っていますか。



SQ お子様は、どのような教室や教材で、英語の学習を行っていますか。(「行っている」と回答した人のみ)



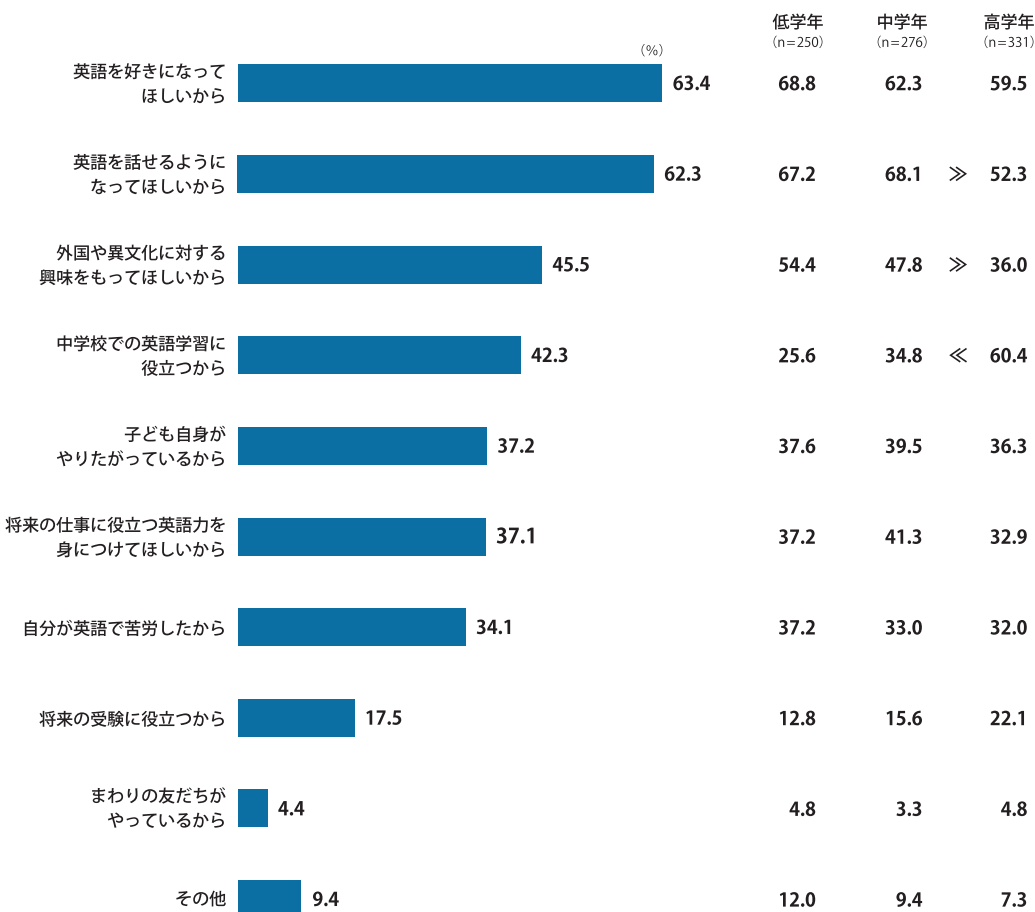
学校の授業以外で、英語や英会話の学習を「行っている」小学生の割合は18.8%。学年別に見ると、6年生が24.0%と他の学年に比べてやや多い(図4-1)。「行っている」場合の教室や教材の種類は、「英会話教室」がもっとも多く、「学習塾の英語コース」が続く。また、低・中学年では「英会話教室」が多いが、高学年になると「学習塾の英語コース」が多くなる(図4-2)。

## 2 | 学校外で英語学習をさせている理由

学校外で子どもに英語学習をさせている保護者のうち、6割が「英語を好きになってほしいから」「英語を話せるようになってほしいから」という理由をあげている。高学年になると、「中学校での英語学習に役立つから」という理由が増加する。

**SQ** お子様に英語の学習をさせている理由は何ですか。(「行っている」と回答した人のみ)

図4-3 学校外で英語学習をさせている理由



\* 学校外で英語学習を「行っている」と回答した人(886人)のみ対象。  
\* 複数回答。

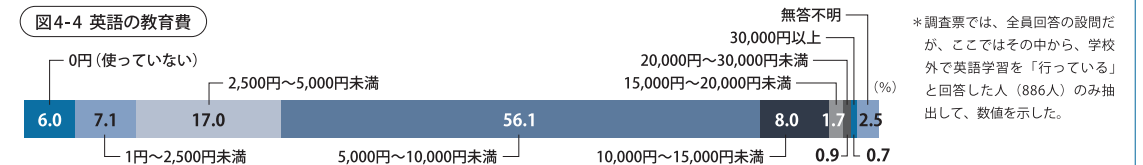
◀ ▶は10ポイント以上の差があったもの

学校外で子どもに英語学習をさせている保護者に、その理由をたずねたところ、6割が「英語を好きになってほしいから」「英語を話せるようになってほしいから」をあげている。また、高学年になると「中学校での英語学習に役立つから」という理由が増加する一方、「英語を話せるようになってほしいから」「外国や異文化に対する興味をもってほしいから」といった理由は減少する。

## 3 | 英語の教育費

学校外で英語学習を行っている場合の1か月の費用は、「5,000円～10,000円未満」が最多。

**SQ** 英語学習の費用はどれくらいでしょうか。学校での費用を除いた英語の学習にかかる1か月の費用の合計を教えてください。

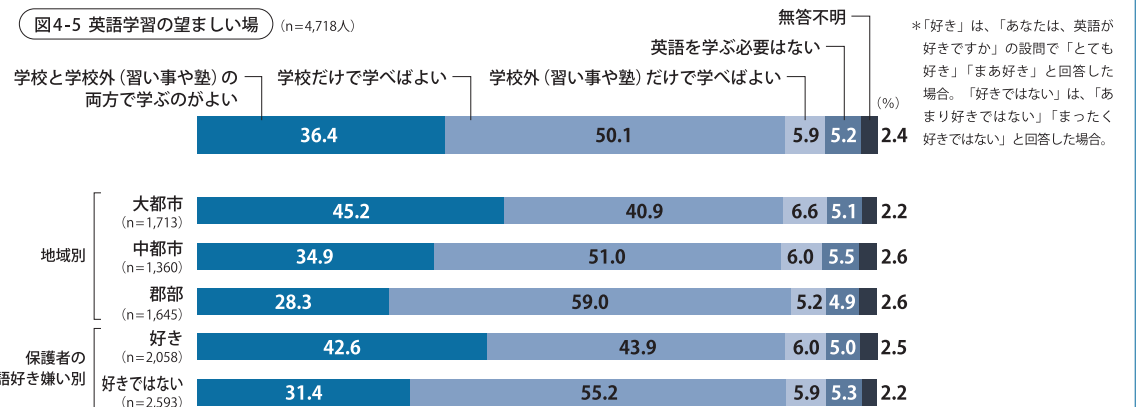


子どもに学校外で英語学習をさせている場合の1か月当たりの費用をたずねたところ、「5,000円～10,000円未満」が56.1%でもっとも多く、次いで「2,500円～5,000円未満」が17.0%だった。

## 4 | 英語学習の望ましい場

ほぼ半数の保護者が、小学生のうち英語を「学校だけで学ばばよい」と考えている。「学校と学校外の両方で学ぶのがよい」と考えているのは36.4%。

**Q** お子様が小学生のうちに英語を学習するとしたら、どこで学ぶのがよいと思いますか。



小学生のうちに英語学習をするとしたらどこで学ぶのがよいと思うかをたずねたところ、「学校だけで学ばばよい」がもっとも多く50.1%。次いで「学校と学校外の両方で学ぶのがよい」が36.4%だった。地域別では、郡部<中都市<大都市の順で、「学校と学校外の両方」との回答が多く

なっている。さらに、保護者自身が英語を好きかどうかによってみたところ、英語が「好き」な保護者では、「学校だけ」「学校と学校外の両方」の回答がともに4割程度だったが、「好きではない」保護者だと「学校だけ」との回答が多くなっている。